


助成事業実施報告書

公益財団法人みらいファンド沖縄 御中

(対象事業・団体)

報告書作成日	2013年 2月 23日	
採択団体名	NPO 法人 HIV 人権ネットワーク沖縄	
代表者氏名	比嘉 正央	
プログラム名	寄付と助成のプログラム ぱくと	
事業コード	p0105	
助成対象(採択)事業	ハンセン病シンポジウム in 静岡	

(助成事業実施の報告内容)

実施場所	鹿児島県 / 宮崎県
実施日	鹿児島公演 2013年2月9日 / 宮崎公演 2013年2月10日
実施概要	<p><input type="checkbox"/>実施内容</p> <p>人権フォーラム in 鹿児島 / 人権フォーラム in 宮崎</p> <p><input type="checkbox"/>実施日</p> <p>鹿児島公演 2013年2月9日 開場12時半・開演13時～16時半まで 宮崎公演 2013年2月10日 開場14時半・開演15時～17時半まで</p> <p><input type="checkbox"/>実施場所</p> <p>鹿児島市民文化ホール中ホール(鹿児島県) / 佐土原総合文化センター大ホール(宮崎県)</p> <p><input type="checkbox"/>対象者</p> <p>鹿児島・宮崎県内外の一般の方</p> <p><input type="checkbox"/>参加者数と参加者の内訳</p> <p>鹿児島公演 来場者数: 800名(最大収容1000名)。政府・人権義護委員会・教育関係者。 宮崎公演 来場者数: 400名(最大収容700名)。ハンセン病関係者、出演者の家族。</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>鹿児島公演は、厚生労働省、法務省と鹿児島県が主催で、当団体は共催として演劇のみの出演で参加。その代わり宮崎公演は、宮崎県と主催として出演者依頼等も含め全て協力しながら運営を行った。</p>
社会への報告	ブログ等にアップした報告記事があれば URL を記入してください。
メディア掲載	<p>新聞・雑誌等への掲載があった場合、この欄に記入の上、コピーを添付してください。</p> <p>宮崎日日新聞 http://www.hiv-net.com/pdf/20130201_myانيتi.pdf</p>

(注意事項)

- パクト毎に提出が必要です。A41枚以内に納めてご記入ください。
- 助成事業終了後6ヵ月を経過しても本報告書の提出がない場合、寄付募集支援をただちに停止します。
- 採択事業の寄付募集支援期間終了後、記録写真の提供を依頼することがあります。

事務局記入欄

報告書受付日	担当チェック	備考	承認	事務局長

【添付資料】プロセス・感想など

□事業の様子

【鹿児島公演】全国大会にも出演経験のある鹿児島県立松陽高等学校の素晴らしい合唱で始まり、シンポジウム出演者では、ハンセン病回復者の上野正子さん、アジアチャイルドサポートの池間哲郎さん、今回初めて大学生を入れて、若者の視点や意見を取り入れた内容だった。演劇では、子どもたちが沖縄代表として舞台に立ちとても輝いていた。シンポジウムの内容が良かったので、演劇も入りやすかった。閉会式では、ハンセン病全国療養所協議会の会長から、お褒めの言葉を頂き、今後も演劇を継続して46都道府県で開催することを強調していた。

【宮崎公演】この公演は、宮崎県と当団体の合同主催であり、全て運営しないおぼは行けなかった。オープニングは、琉球祭り太鼓宮崎支部で始まり、会場近くの広瀬小学校の合唱部で始まった。パネルディスカッションでは、現地の佐土原高校の学生6名がハンセン病を学び、差別・偏見について自分の意見を一生懸命観客に伝えていた。その後、当団体の卒業生でもある、沖縄出身のシンガソングライターの「しおり」によるメッセージソング。パネルディスカッションでハンセン病について少し知識を学んだ後に、「しおり」が実際にハンセン病療養所愛楽園で滞在した事、ハンセン病回復者の方々と触れ合い、そのからできた「おぼ～のうた」を歌い、とてもいい流れで、演劇に持ち込む事ができた。演劇では、オープニングでも出演してくれた琉球祭り太鼓のメンバーが1シーン出演し、交流も深まった。最後のフィナーレでは、「世界に一つだけの花」を歌い、会場が1つになった。大盛況で幕を閉じることができた。その後、主催者でもある宮崎県の職員、全出演者、関係者一同で、交流会を行った。宮崎にも家族ができた。

2公演共、大盛況で無事終わることで出来、心より感謝しています。

□参加者の反応

【鹿児島公演】政府、人権擁護委員会、教育関係者の来場が多くアンケートも今までのコメントとは違いレベルの高いコメントが多かった。(アンケート集計添付)

【宮崎公演】会場が宮崎市内ではあるが都会からとても遠い場所だったので、もっと都会で開催し、この意義のあるイベントを沢山の人の目にほしいという意見が多かった。また、地元の生徒、教師、県職員と沖縄のメンバーが力を合わせて1つのイベントを作り上げることに感動していた。

□事業の成果

【鹿児島公演】ハンセン病療養所がある鹿児島県で行うことで、政府機関、また市民に療養所のこと、ハンセン病のことを認知してもらえた。

【宮崎公演】県からの依頼で、演劇「光りの扉を開けて」のDVD150枚を県内小・中・高校・大学に教材として配布予定。

□寄付者へのメッセージ

今回「ぱくと」の寄付金で、父子家庭、母子家庭の小学生2名の旅費を補うことができました。県外公演に参加したい気持ちは強くあったが、旅費が金銭的に厳しいと言うことで諦めていましたが、行けなくても毎回の練習に参加する姿勢を見て、この2名なら今後の生活環境、学校生活も変わることを期待し、旅費を補うことにしました。今回の県外公演のテーマが「愛と主体性」で、2名は参加して著しく変わった事は、今まで周りに言われて動く受け身だったのが、自分から率先して行動し、お手伝いしないか聞くようにまでなり、またリーダーシップを発揮するまでに変容しました。そして遅刻が多い子も学校も練習も遅刻が減って来ました。今回この機会がなければ、ここまでの変容はなかったと思います。寄付して下さった方に心から感謝しています。寄付金で参加できた子どもがこれから、自分の内面を磨き、今後社会に貢献できる人になるまで共に頑張りたいと思います。

(注意事項)

※できる限りA4サイズ1~2枚にまとめてご提出ください。

※記録写真の提供(3~5枚)もお願いします【キャプション付き】。

提供いただく写真について

- * 画像形式はjpegで、1枚につき300KB以上のものが望ましい(印刷に用いるため)。
- * 写っている方に対し許可が必要であれば、団体側であらかじめ許可を得てください。
- * 画像は、メールに添付してお送りください。

画像の送信先: miraifund@mirai-fund.org (我如古) ganeko@mirai-fund.org

鹿児島公演



鹿児島公演
パネリスト
のハンセン
病回復者の
上野正子さ
んと劇メン
バー。



鹿児島公演：オープニング松陽高等学校合唱部とフィナーレ練習

人権フォーラム in 宮崎
来場者アンケート結果

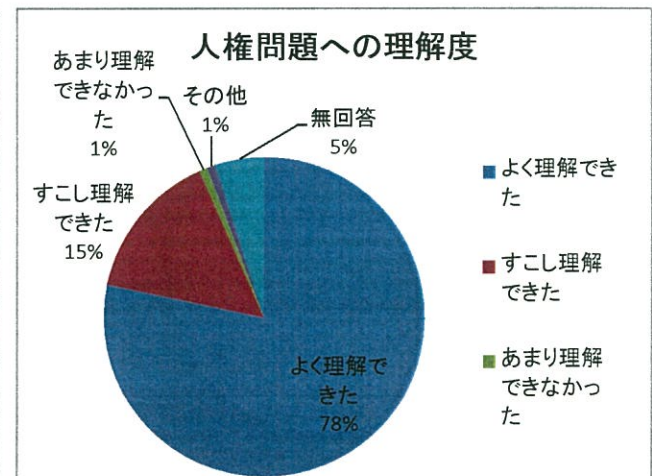
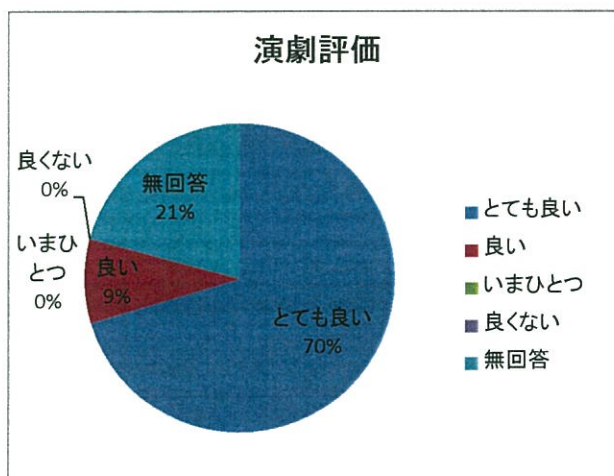
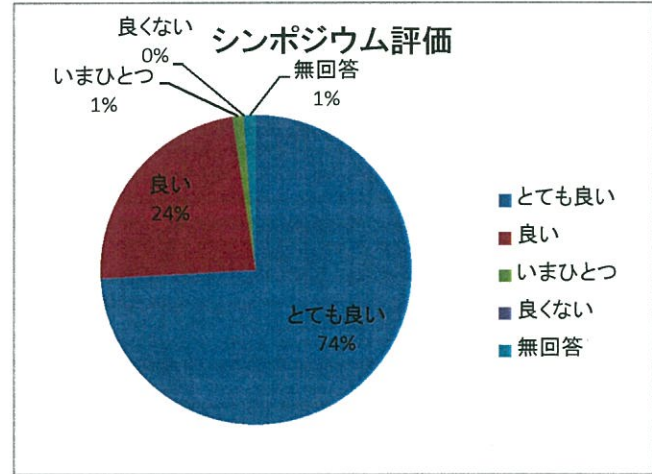
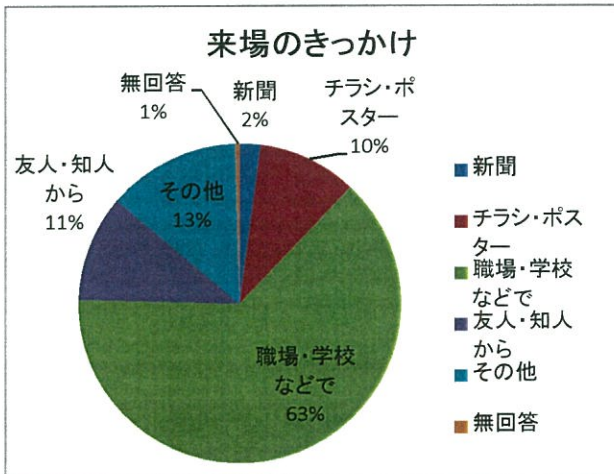
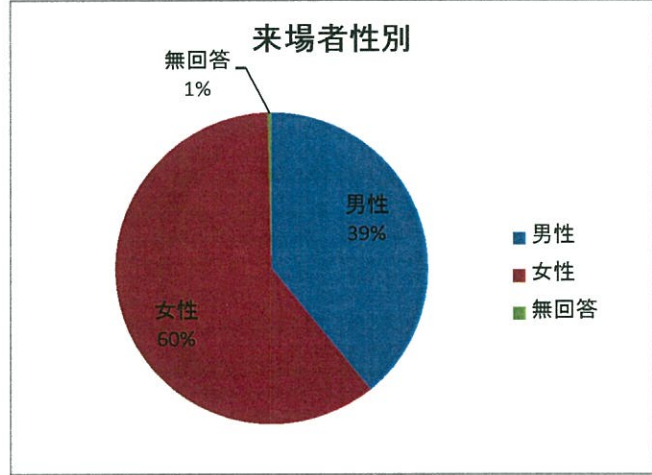
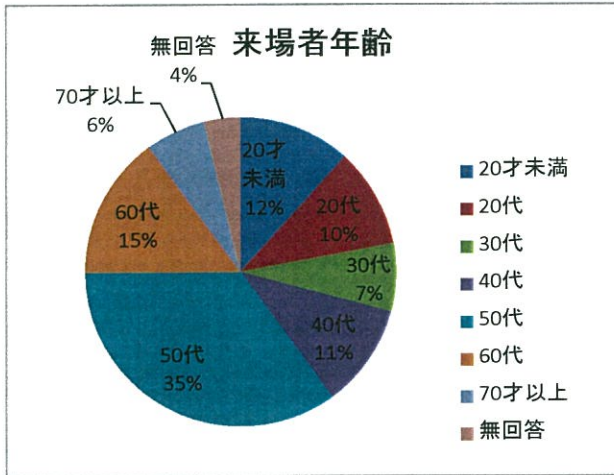
年齢		来場のきっかけ		イベント評価	
20才未満	7	新聞	2	とても良い	35
20代	1	チラシ・ポスター	13	良い	3
30代	5	職場・学校など	12	いまひとつ	0
40代	10	友人・家族から	8	良くない	0
50代	8	参加者	3	無回答	1
60代	5	その他	1		
70才以上	2				
無回答	1				
合計	39	合計	39	合計	39

設問	1 年齢	2 職業	3 媒体	4 イベント評価	5 感想
選択肢			1:新聞 2:チラシ・ポスター 3:職場学校 4:友人・家族 5:参加者 その他	1:とても良い 2:良い 3:いまひとつ 4:良くない	自由記述
16	55	会社員	4	1	人のために何が出来るか、お互い理解し合うこと、真の理解とは何かを考えさせられることを。。勉強させられました。
17	40	高校教員	2	1	教育という未来の日本を担う子供たちを”育てる”立場として知ることが必要だと感じ、このフォーラムに参加しました。正しい認識で正しく伝える。この難しさはありますが、まず、自分たちが知ることが大切。もう少し時に若い方々、同職の方々の参加が多いと嬉しいのです
18	65		4	1	・沖縄の子ども、広小の子ども共に素晴らしかったです。 ・本日の内容おすごく良かったのに、観客が少ないのが残念でした。 ・人権の演劇も素晴らしかった。 ・もっと広報を検討が必要です(もったいないです。)
19		中学校教員	3		学校でチラシを読み、学級の生徒と一緒にやって来ました。空席もあったので、もったいないなあと感じました。地域の小学校の合唱や高校の演劇部の発表も頑張っていたし、このような企画にもっと多くの学生達が参加してもらえたらと、思うことです。福祉の道に進みたいと考えている中3の生徒にも新たな志が芽生えたのではないかと思います。素晴らしいステージでした。「世の中で、最低の行為の一つは、無関心であること」(ダライ・ラム)の言葉がよぎるラストでした。ありがとうございました
20	44		1	1	フォーラムを通して、ハンセン病について、人権について深く考えることができた。
21	47	主婦	1	1	とても感動しました。ありがとうございました。

36	52		3	2	シンガーソングライターの方の歌声が美しいでした。
37	45		2	1	沖縄から劇団が来ると知って、楽しみにしていました。長女(15才)も連れてくる予定でしたが、次女(10才)とめいっこ達8才、6才を連れて参加しました。途中からやっとフォーラムの主旨が分かった所です。。長女にも見せたかったです。ハンセン病のこと、とてもわかりました。さっそく家族から伝えていきたいと思いました。
38	50	自営業	3	1	各々のイベントにとっても感動しました。ハンセン病のこと、エイズについての誤知識が差別を生み、人として1人ひとりが生きていることをもっと多くの人にわかってほしいと思いました。病気=キタナイというイメージが皆の心のどこかに住んでいるのも事実ではないかと思
39	28	公務員	3	1	大変勉強になる内容だった。仕事柄ハンセン病回復者とせつすることがあるがあんなにも辛いことを経験されていたのかと本当に胸が苦しくなった。この演劇は、宮崎市文化ホールなどもっと人が集まる所でやった方がいいと思う。内容がとても良かったので、もったいない
40	64		2	1	明石海人氏の短歌を4~5日前に聞いたばかりでした。この方の短歌だったのだとわかりました。本当に支えになる(勇気)言葉です。明石氏の気持ちを今思っています。
41	61	教員	3	2	ハンセン病の問題をこれからの時代を担う子どもたちが演じるという企画は素晴らしいと思う。演じるということで遠い存在だった問題を自分のこととして、考えることができる。残念なのは、見ている人が、関係者くらいで、高校生などが少なかったこと。もったいなかったですね。ただHIVにかかった高校生の悩みの部分の影が薄くなったですね。(性の問題と絡んでもくるはずですが)。ただ差別や偏見をなくすという支店ではしっかり描
42	58	教員	3	1	サークルや小学生、高校生の参加、プレゼン、コンサート、劇、いずれも良い内容でした。感銘を受けました。素晴らしいプログラムでした。ただ一つ残念だったのは、参加者が少なかったことです。もう少しPRや動員策をすべきだったと思います。会場も中央部の方が参加しやす
43	78		4	1	自分の周りだけの狭い中で生活していた毎日でも現実には色々苦しんでいる人たちの多いこと、改めて知らされました。久しぶりに聞いた広瀬小の子供達のけがれのない歌声、一所懸命太鼓を叩いた「琉球国太鼓」さわたかで力強く感動しました。年を重ねて知らないこといっぱい。今日は沢山の優しさと宝を頂きました。沖縄劇団素晴らしいです。今これから私どもに出来るかわかりませんが、少しでもとおもいます。「光りの扉を開けて」人間の平等について考えます。涙しました。演劇部の人達の演技、一流でした。素晴らしかったです。
44	38	主婦	2	1	胸が熱くなりました。人間として大切な事を改めて確認！そして金城おばあの強さ優しさに尊敬します。子ども達に伝えたいメッセージが詰まった舞台！この活動大切ですが、続けてください！応援します。
45	50	高校教員	2	1	素晴らしい演劇でした。熱演に感情が揺さぶられて涙を流しました。脚本演技等も素晴らしい一言です。たまたまチラシを学校で見えて出会いました。もっと多くの人にみてもらうといいと思います。見て貰いたいです。

第12回ハンセン病問題に関するシンポジウム
来場者アンケート結果

年齢	性別	来場のきっかけ	シンポジウム評価	演劇評価	人権問題への理解度
20才未満	28 男性	94 新聞	5 とても良い	178 とても良い	169 よく理解できた
20代	25 女性	145 チラシ・ポスター	24 良い	56 良い	21 すこし理解できた
30代	17 無回答	1 職場・学校などで	152 いまひとつ	3 いまひとつ	0 あまり理解できなかった
40代	26	友人・知人から	26 良くない	0 良くない	0 その他
50代	84	その他	32 無回答	3 無回答	50 無回答
60代	36	無回答	1		
70才以上	15				
無回答	9				
合計	240 合計	240 合計	240 合計	240 合計	240 合計



歌聞いて人権考えて

広瀬小合唱部 10日フォーラムへ練習

宮崎市・広瀬小合唱部(塩月恵子顧問、48人)は、10日に市佐土原総合文化センターで「人権フォーラム20



手話を交えた歌の練習に励む広瀬小合唱部のメンバーたち

13in宮崎(県、NPO法人JIEV人権ネットワーク沖縄主催)に出演する。フォーラムは本県初開催。手話を交えた曲など4曲を披露する予定で、部員たちは「歌の力

で思いを届けたい」と話している。

フォーラムは、ハンセン病やエイズなどをテーマに人権について考えようと、2003年から沖縄県を中心に全国で開催しており33回目。宮崎大会では沖縄の小中高生が演劇を披露、佐土原高の演劇部員が意見発表する。

合唱部はオープニングに登場。塩月顧問が「歌は障害も国籍も関係ない。人権を考えるきっかけにしたい」と選曲した4曲を歌う。手話を交えるのは「世界がひとつになるまで」のさびの部分。「ほほえむは笑う感じ」「守るは左手を右手で包み込むように」と客席に伝わるよう感情たっぷりに練習に励んでいる。

部長の6年児玉末優さん(12)は「言葉以外にも思いを伝える手段があると知った。4曲の歌で『困ったときでも誰かが必ずそばにいる』というメッセージを伝えたい」。パートリーダーの同山下芳輝君(11)は「歌詞の意味を考えて歌うことで、うまくいったねと言われるようになった。気持ちを込めて歌いたい」と意気込んでいる。

(26) 7079